

序に代えて：自立と迷惑

| | |
|-----|---|
| 雑誌名 | 真実心 |
| 巻 | 38 |
| ページ | 1-3 |
| 発行年 | 2017-03-10 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1108/00000832/ |

序に代えて

自立と迷惑

一 郷正道

最近、「女性の自立」と言うことがよく言われます。経済的に独立して自分の生活を支えられる、自分の意見をはっきり述べ自分で決断できる、自分のことは自分で始末できる、等が「自立」の内容のようである。それは、当然大事なことである。

ところで、はたして、男性であろうが女性であろうが、「自立」など可能でしょうか。普段、私たちは、自分の意思、能力、努力で自分の足で立っている、すなわち、自立している、と言っております。しかし、仏教の教えによれば、「自立」などあり得ない、というのが正しいでしょう。なぜならば、私たちは、他なる、人・生き物・物・自然等とのか

かわり、関係性の中にしか存在し得ないからです。「他」と言う自分以外のものとのかわりの中にか存在し得ません。自立しているのではなく、他なるすべてのもの―目に見えるもののみならず目に見えないものをふくめて―に依って生かされているのです。もともと、制約された存在でしかないのです。

そして、「他に依る」かぎり、他に迷惑をかけざるを得ないのです。大半の人は、自分にかぎってあの人と較べれば迷惑などをかけていない、と思っております。

ところで、迷惑の最たるものは何でしょう。それは、他のいのちを奪うことでしょう。大は戦争から日常生活において、私たちは他のいのちを奪いつづけています。毎日の食生活で他の動、植物のいのちを奪わないことには、私自身、自分のいのちを支えることができなのです。食生活だけでなく、あらゆる面で迷惑をかけているにちがいないのです。私が気付いていないだけなのです。

したがって、家庭において学校において、かならず「迷惑をかけない人間になりなさい」と教えられます。それは正しい大事な文言です。しかし、それは上述の如く不可能なことです。そうであれば、次のように教えるべきです。「これ以上迷惑をかけることのか

自立と迷惑

い人間になるよう努力しましょう」と。

したがって、「自立」とは、他に迷惑をかけないことである、と定義したらいいでしょう。が、それは不可能なことであると自覚して、迷惑をかけずにおれない私が、このように生かしていただいていて勿体ない、有難いことです、と報恩感謝の生活をするよう努めたいと思います。